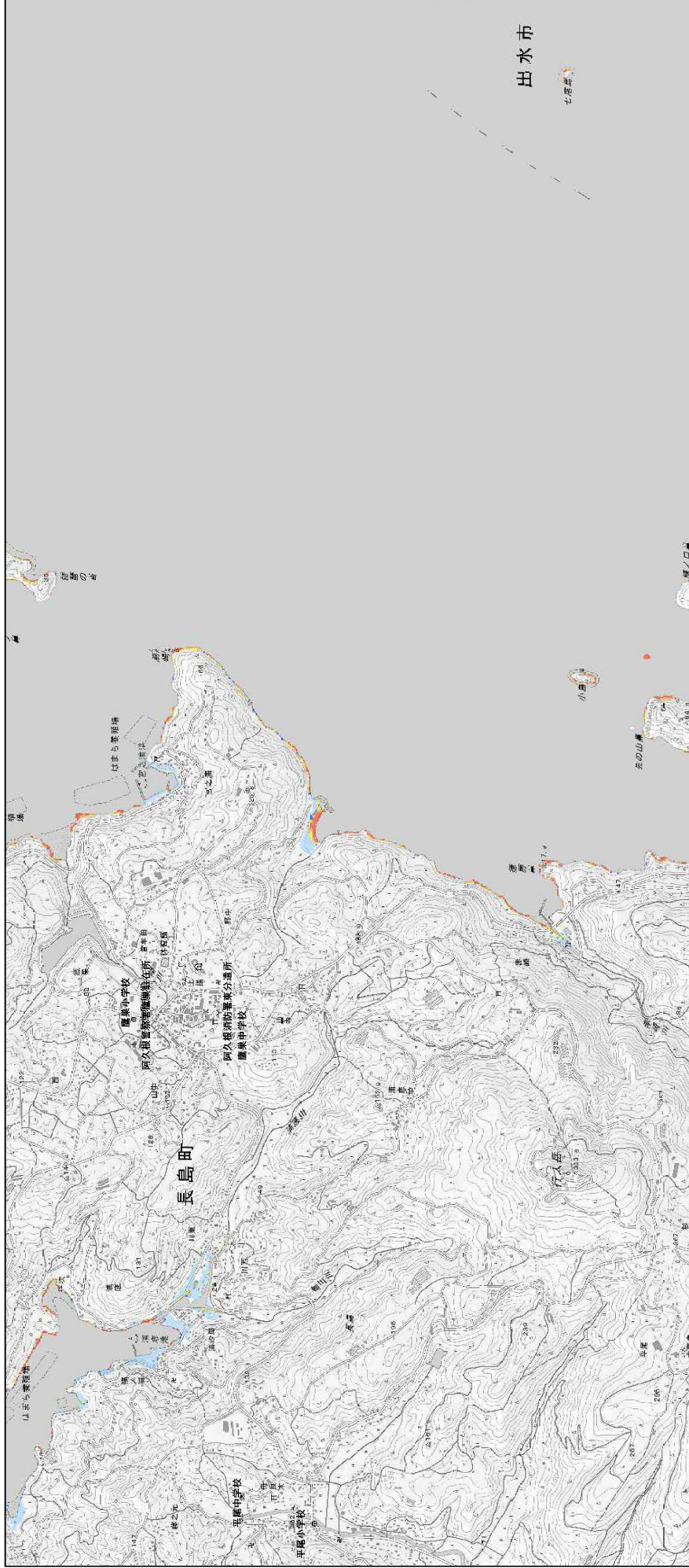


鹿児島県八代海沿岸高潮浸水想定区域図（浸水継続時間）市町村別『長島町』（6/11）



**【留意事項】** 浸水継続時間図は、水防法に基づき、都道府県知事が高潮による浸水が想定される範囲、浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。  
 ○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で深位偏差（満位と平均潮の差）が最大となるような経路を想定して高潮浸水シミュレーションを実施し、その結果を市町村単位、最悪の浸水深が示されるようにしております。  
 ○最大クラスの浸水は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した台風や高潮から想定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものはありません。  
 ○最大クラスの浸水を引き起こす台風の中心気圧としては、我が国で既往最大規模の台風（昭和9年）を想定しています。なお、この規模の中心気圧を持つ台風が来襲する確率は三つの数値（東京湾、太平洋、伊勢湾）で見ると500年か100年か10年か1度と想定されています。  
 ○浸水区域は浸水想定区域図、局所的な地形の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水区域でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったたりする場合があります。  
 ○地形図は、主に平成20年度に作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。  
 ○地下につながる地下空洞やトンネル、地下空間に存在する場合、浸水区域に浸水する恐れがあります。  
 ○地盤高が明瞭な平均海抜より低い地域については、堤防等が浸没した後、高潮が収束した後でも、日々の干潮によって、浸水が発生する可能性があります。  
 ○避難経路のためには、気象庁が事前に発表する台風情報（気象庁は日本列島に大きな影響を及ぼす台風には日本列島に大きな影響を及ぼす台風を発生させています。）や、市町村で今後作成されるハザードマップ等を活用してください。  
 ○台風が来襲する前に避難を完了し、高潮警報や避難勧告が解除されるまでは、避難を継続する必要があります。  
 ○今後、数値の精度や表記の改善等により、修正の可能性があります。

**【用語の解説】**（図一）参照  
 ○用語の解説：浸水深が50cmに下回ってから50cmを下回るまでの時間です。  
 ○浸水継続時間：浸水深が50cmに下回ると同時に避難が困難となり孤立する可能性のある水深として設定しています。ここで50cmは、高潮時に避難が困難となり孤立する可能性のある水深として設定しています。なお、一旦水が引いて50cmを下回った後、高潮等により再度浸水して50cmを上回った場合は、図一のように最初に50cmを上回ってから最終的に50cmを下回るまでの通常の時間として扱います。  
 ○緊急的な排水対策等は考慮していません。

